

作成日：1996年09月17日
 改訂日：2025年03月14日

安 全 デ ー タ シ ー ト

1. 製品及び会社情報

製品の名 称:ショーボンド BLシール(S) 主剤
 会 社 名:ショーボンドマテリアル株式会社
 住 所:埼玉県川越市芳野台2-8-10
 担 当 部 門:品質保証課
 電 話 番 号:049-225-5611 F A X:049-225-5616
 緊急連絡先:品質保証課 電 話 番 号:049-225-5611
 整 理 番 号:BLシール(S)主剤 -15

推奨用途及び使用上の制限:工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性:	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器 呼吸器系 中枢神経)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分3(気道刺激性) 区分1(呼吸器 呼吸器系 腎臓 聴覚器)
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

※記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

- H315 皮膚刺激
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H319 強い眼刺激
- H332 吸入すると有害
- H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
- H335 呼吸器への刺激のおそれ
- H350 発がんのおそれ
- H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

- H370 呼吸器、呼吸器系、中枢神経の障害
- H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、呼吸器系、腎臓、聴覚器の障害
- H401 水生生物に毒性
- H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

- 予防策: 熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 屋外または換気の良い場所で使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
- 対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
 下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。
- 保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
不飽和ポリエステル	登録済み	登録済み	25~35
スチレン	(3)-4	100-42-5	17
無水フタル酸	(3)-1344	85-44-9	1.1
N, N-ジメチルアニリン	(3)-114,(3)-129	121-69-7	1 未満
二酸化ケイ素	(1)-548	14808-60-7	10~20

4. 応急処置

- 目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹸で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: 粉末、炭酸ガス、泡。
 使ってはならない消火剤: 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
 特有の消火方法: 可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
 消火を行うものの保護: 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 保護具及び緊急時措置:直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
 環境に対する注意事項: 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :
 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
 使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
 ホームページアドレス: <https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
 屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 「10.安定性及び反応性」を参照。
 接触回避:
 保管 :
 技術的対策: 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
 保管条件: 酸化剤、酸から離して保管する。
 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
 施錠して保管すること。
 混色禁止物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 容器包装材料: 金属製で密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先 : <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
不飽和ポリエステル	未設定	未設定	未設定
スチレン	20ppm	10ppm(42.6mg/m ³)(皮)	設定あり
無水フタル酸	未設定	【最大許容濃度】 0.33ppm(2mg/m ³)	設定あり
N, N-ジメチルアニリン	未設定	5ppm(25mg/m ³)(皮)	設定あり
二酸化ケイ素	未設定	【粉塵許容濃度】(吸入性 結晶質シリカ)0.03mg/m ³	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
不飽和ポリエステル	未設定	未設定
スチレン	未設定	未設定
無水フタル酸	未設定	未設定
N, N-ジメチルアニリン	25mg/m ³ (適用日:2025/10/01)	-(適用日:2025/10/01)
二酸化ケイ素	未設定	未設定

設備対策： 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具： 有機ガス用防毒マスク 送気マスク
手の保護具： 不浸透性の保護手袋
目の保護具： 保護メガネ
皮膚及び身体の保護具： 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等： パテ状
色： 黄褐色
臭い： スチレン臭
融点／凝固点： データなし
沸点,初留点及び沸騰範囲： データなし
可燃性： データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界： データなし
引火点： 14℃以上
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし
pH： データなし
動粘性率： データなし
溶解度： データなし
n-オクタノール／水分配係数(log値)： データなし
蒸気圧： データなし
密度及び／又は相対密度： 1.6g/cm³
相対ガス密度： データなし
粒子特性： データなし
その他情報： データなし

10. 安定性および反応性

安定性： 冷暗所で密閉状態では安定である。
反応性： 知見なし。
避けるべき条件： 金属粉等の混入、高温(50℃以上)での保管、火気。
混触危険物質： 消防法危険物1類、6類と混載してはならない。
危険有害な分解生成物： 知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性： 経口： 急性毒性推定値が 452181.550829mg/kg のため区分に該当しないとした。
毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
経皮： 急性毒性推定値が 8168.4655631mg/kg のため区分に該当しないとした。
毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
吸入(気体)： GHS 定義による気体ではない。

吸入(蒸気):	急性毒性推定値が 7269.9155309ppm のため区分 4 とした。
吸入 (粉じん・ミスト):	急性毒性推定値が 1.5379747mg/l のため区分 4 とした。
皮膚腐食性/刺激性:	区分 2 の成分合計が 46%のため、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性:	眼区分 2A の成分合計が 46.111%のため、区分 2A とした。
呼吸器感作性:	区分 1 の成分が 45.556%のため、区分 1 とした。
皮膚感作性:	区分 1 の成分が 45.556%のため、区分 1 とした。 ※区分 1 は 0.444%含まれる。
生殖細胞変異原性:	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性:	区分 1A の成分が 35.556%のため、区分 1A とした。 ※区分 2 は 0.111%含まれる。
生殖毒性:	区分 1A の成分が 0.444%のため、区分 1A とした。
生殖毒性・授乳影響:	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	区分 1(中枢神経)の成分が 45.556%のため、区分 1(中枢神経)とした。 区分 1(呼吸器)の成分が 35.556%のため、区分 1(呼吸器)とした。 区分 1(呼吸器系)の成分が 17.222%のため、区分 1(呼吸器系)とした。 区分 3(気道刺激性)の成分合計が 46%のため、区分 3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	区分 1(呼吸器)の成分が 45.556%のため、区分 1(呼吸器)とした。 区分 1(聴覚器)の成分が 45.556%のため、区分 1(聴覚器)とした。 区分 1(呼吸器系)の成分が 17.222%のため、区分 1(呼吸器系)とした。 区分 1(腎臓)の成分が 17.222%のため、区分 1(腎臓)とした。
誤えん有害性:	動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性):	(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が46.111%のため、区分2とした。
水生環境有害性 長期 (慢性):	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が47.11%のため、区分3とした。
生態毒性:	データなし。
残留性・分解性:	データなし。
生体蓄積性:	データなし。
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

産業廃棄物（廃液と廃プラスチック類の混合物）として許可を受けた専門業者に委託する。
乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。
容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類：クラス 4. 1（可燃性固体 PG III）
国連番号：1 3 2 5

15. 適用法令

労働安全衛生法:

特定化学物質第2類物質、特別有機溶剤等(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2号、第3の2号、第3の3号)

スチレン

作業環境評価基準(法第65条の2第1項)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項・厚労省指針公示)

スチレン

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9)

スチレン(政令番号:323)

無水フタル酸(政令番号:553)

結晶質シリカ(政令番号:165の2)

特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)

スチレン

特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項)

がん原性物質(安衛則第577条の2第5項、令和4年12月26日告示第371号、令和4年12月26日基発1226第4号)

結晶質シリカ

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

無水フタル酸

皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

無水フタル酸

特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

スチレン

労働安全衛生法

(令和7年4月1日以降):

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

スチレン(安衛則別表第2の番号:1128)

無水フタル酸(安衛則別表第2の番号:1976)

結晶質シリカ(安衛則別表第2の番号:578)

濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号)

労働安全衛生法

(令和8年4月1日以降):

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

	スチレン(安衛則別表第2の番号:1128)
	無水フタル酸(安衛則別表第2の番号:1976)
	結晶質シリカ(安衛則別表第2の番号:578)
	N, N-ジメチルアニリン(安衛則別表第2の番号:996)
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法):	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) スチレン(管理番号:240)(17%) 無水フタル酸(管理番号:413)(1.1%)
化審法:	優先評価化学物質(法第2条第5項)
消防法:	第2類 可燃性固体 引火性固体
水質汚濁防止法:	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
悪臭防止法:	特定悪臭物質(施行令第1条)
大気汚染防止法:	特定物質(法第17条第1項、施行令第10条) 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次 答申)
海洋汚染防止法:	揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達) 油性混合物(施行規則第2条の2) 危険物(施行令別表第1の4) 有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(X類物質)・油性混合物(施行令別表第1第1号イ(81)) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(X類同等の物質)(環境省告示第148号第1号)
外国為替及び外国貿易法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法):	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12 号)
労働基準法:	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したのですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS): JIS Z 7253:2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月(社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカーSDS

作成日：1996年09月17日

改訂日：2025年03月14日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称:ショーボンド BLシール(S) 硬化剤
会社名:ショーボンドマテリアル株式会社
住所:埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門:品質保証課
電話番号:049-225-5611 F A X:049-225-5616
緊急連絡先:品質保証課 電話番号:049-225-5611
整理番号:BLシール(S)硬化剤-15

推奨用途及び使用上の制限:工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性:	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
	皮膚感作性	区分1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用 気道刺激性)
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分1
※記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない		

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

予防策: 熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で
 休息させること。

下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、
 身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。

保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が
 立ち入れないような管理された場所で保管すること。

廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
 業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
フタル酸ジメチル	(3)-1301,(7)-705	131-11-3	20~30
過酸化ジベンズイル	(3)-1349	94-36-0	1~10
酸化チタン(IV)	(1)-558,(5)-5225	13463-67-7	1~10

4. 応急処置

目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹸で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: 粉末、炭酸ガス、泡。
 使ってはならない消火剤: 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
 特有の消火方法: 可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
 消火を行うものの保護: 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 保護具及び緊急時措置:直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
 環境に対する注意事項: 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

- 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
- 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
- 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」
「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
ホームページアドレス: <https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
- 接触回避: 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管 :

- 技術的対策: 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
- 保管条件: 酸化剤、酸から離して保管する。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
- 混色禁止物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料: 密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先: <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
フタル酸ジメチル	未設定	未設定	設定あり
過酸化ジベンゾイル	未設定	未設定	設定あり
酸化チタン(IV)	未設定	0.3mg/m ³ ;総粉塵 2mg/m ³ 吸入性粉塵 1.5mg/m ³	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
フタル酸ジメチル	未設定	未設定
過酸化ジベンゾイル	未設定	未設定
酸化チタン(IV)	未設定	未設定

- 設備対策: 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

- 呼吸器の保護具: 必要な個人用保護機器を使用すること。
- 手の保護具: 不浸透性の保護手袋
- 目の保護具: 保護メガネ
- 皮膚及び身体の保護具: 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

- 物理的状態、形状等: パテ状
- 色: 白色
- 臭い: 特になし
- 融点/凝固点: データなし
- 沸点,初留点及び沸騰範囲: データなし

可燃性:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:	データなし
引火点:	100℃以上
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
pH:	データなし
動粘性率:	データなし
溶解度:	データなし
n-オクタノール/水分配係数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	2.0g/cm ³
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし
その他情報:	データなし

1 0. 安定性および反応性

安定性:	常温、常圧で安定。65℃以上で急激に反応する。
反応性:	アミン類、酸、アルカリ等により爆発的に分解が促進される。
避けるべき条件:	酸類、アミン、還元性物質と同一場所での保管。
混触危険物質:	本製品の分解を促進する酸・アルカリ類、アミン類、重金属、還元性物質等の異物および木、紙、綿、織物等の可燃物との接触を避ける。
危険有害な分解生成物:	ジフェニル、安息香酸、一酸化炭素

1 1. 有害性情報

急性毒性:	経口:	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	経皮:	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入(気体):	GHS 定義による気体ではない。
	吸入(蒸気):	急性毒性推定値が 50000ppm 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入 (粉じん・ミスト):	急性毒性推定値が 12.5mg/l 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性/刺激性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性:		眼区分 2 の成分合計が 29%のため、区分 2A とした。
呼吸器感受性:		データ不足のため分類できない。
皮膚感受性:		区分 1 の成分が 29%のため、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性:		データ不足のため分類できない。
発がん性:		データ不足のため分類できない。
生殖毒性:		データ不足のため分類できない。
生殖毒性・授乳影響:		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):		区分 3(麻酔作用)の成分合計が 24%のため、区分 3(麻酔作用)とした。 区分 3(気道刺激性)の成分合計が 53%のため、区分 3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
誤えん有害性:		動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性):	短期	区分1×毒性乗率の成分合計が29%のため、区分1とした。
水生環境有害性 (慢性):	長期	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性:		データなし。
残留性・分解性:		データなし。
生体蓄積性:		データなし。
土壤中の移動性:		データなし。
オゾン層への有害性:		データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

産業廃棄物（廃液と廃プラスチック類の混合物）として許可を受けた専門業者に委託する。
乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。
容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類：クラス 5. 2（酸化性物質類）有機過酸化物
国連番号：3 1 0 6

1 5. 適用法令

労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV) 危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9) ジベンゾイルペルオキシド(政令番号:282) フタル酸ジメチル(政令番号:480) 酸化チタン(IV)(政令番号:191) 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧) ジベンゾイルペルオキシド
労働安全衛生法 (令和7年4月1日以降):	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) ジベンゾイルペルオキシド(安衛則別表第2の番号:982) フタル酸ジメチル(安衛則別表第2の番号:1717) 酸化チタン(IV)(安衛則別表第2の番号:623)

労働安全衛生法 (令和8年4月1日以降):	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV)
毒物及び劇物取締法: 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法):	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) ジベンゾイルペルオキシド(安衛則別表第2の番号:982) フタル酸ジメチル(安衛則別表第2の番号:1717) 酸化チタン(IV)(安衛則別表第2の番号:623)
消防法: 海洋汚染防止法:	非該当 非該当 指定可燃物 合成樹脂類(その他のもの) 有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法: 道路法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法):	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号)

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS): JIS Z 7253:2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月(社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカーSDS

作成日：1996年09月17日
 改訂日：2025年03月14日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称: ショーボンド BLシール(W) 主剤
 会社名: ショーボンドマテリアル株式会社
 住所: 埼玉県川越市芳野台2-8-10
 担当部門: 品質保証課
 電話番号: 049-225-5611 F A X: 049-225-5616
 緊急連絡先: 品質保証課 電話番号: 049-225-5611
 整理番号: BLシール(W)主剤 -15

推奨用途及び使用上の制限: 工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性:	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器 呼吸器系 中枢神経)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分3(気道刺激性) 区分1(呼吸器 呼吸器系 腎臓 聴覚器)
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

※記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

- H315 皮膚刺激
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H319 強い眼刺激
- H332 吸入すると有害
- H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
- H335 呼吸器への刺激のおそれ
- H350 発がんのおそれ
- H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

- H370 呼吸器、呼吸器系、中枢神経の障害
- H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、呼吸器系、腎臓、聴覚器の障害
- H401 水生生物に毒性
- H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

予防策: 熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 屋外または換気の良い場所で使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。

対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。

下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。

保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。

廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
不飽和ポリエステル	登録済み	登録済み	25~35
スチレン	(3)-4	100-42-5	17
無水フタル酸	(3)-1344	85-44-9	1.1
N, N-ジメチルアニリン	(3)-114,(3)-129	121-69-7	1未満
二酸化ケイ素	(1)-548	14808-60-7	20~30

4. 応急処置

- 目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: 粉末、炭酸ガス、泡。
 使ってはならない消火剤: 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
 特有の消火方法: 可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
 消火を行うものの保護: 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 保護具及び緊急時措置:直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
 環境に対する注意事項: 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :
 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
 使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
 ホームページアドレス:<https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
 屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 「10.安定性及び反応性」を参照。
 接触回避:
 保管 :
 技術的対策: 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
 保管条件: 酸化剤、酸から離して保管する。
 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
 施錠して保管すること。
 混色禁止物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 容器包装材料: 金属製で密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先 : <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
不飽和ポリエステル	未設定	未設定	未設定
スチレン	20ppm	10ppm(42.6mg/m ³)(皮)	設定あり
無水フタル酸	未設定	【最大許容濃度】 0.33ppm(2mg/m ³)	設定あり
N, N-ジメチルアニリン	未設定	5ppm(25mg/m ³)(皮)	設定あり
二酸化ケイ素	未設定	【粉塵許容濃度】(吸入性 結晶質シリカ)0.03mg/m ³	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
不飽和ポリエステル	未設定	未設定
スチレン	未設定	未設定
無水フタル酸	未設定	未設定
N, N-ジメチルアニリン	25mg/m ³ (適用日:2025/10/01)	-(適用日:2025/10/01)
二酸化ケイ素	未設定	未設定

設備対策： 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具： 有機ガス用防毒マスク 送気マスク
手の保護具： 不浸透性の保護手袋
目の保護具： 保護メガネ
皮膚及び身体の保護具： 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等： パテ状
色： 黄褐色
臭い： スチレン臭
融点／凝固点： データなし
沸点,初留点及び沸騰範囲： データなし
可燃性： データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界： データなし
引火点： 14℃以上
自然発火温度： データなし
分解温度： データなし
pH： データなし
動粘性率： データなし
溶解度： データなし
n-オクタノール／水分配係数(log値)： データなし
蒸気圧： データなし
密度及び／又は相対密度： 1.6g/cm³
相対ガス密度： データなし
粒子特性： データなし
その他情報： データなし

10. 安定性および反応性

安定性： 冷暗所で密閉状態では安定である。
反応性： 知見なし。
避けるべき条件： 金属粉等の混入、高温(50℃以上)での保管、火気。
混触危険物質： 消防法危険物1類、6類と混載してはならない。
危険有害な分解生成物： 知見なし。

11. 有害性情報

急性毒性： 経口： 急性毒性推定値が 275658.3397476mg/kg のため区分に該当しないとした。
毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
経皮： 急性毒性推定値が 6592.2754517mg/kg のため区分に該当しないとした。
毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
吸入(気体)： GHS 定義による気体ではない。

吸入(蒸気):	急性毒性推定値が 5905.0246642ppm のため区分 4 とした。
吸入 (粉じん・ミスト):	急性毒性推定値が 1.5379747mg/l のため区分 4 とした。
皮膚腐食性/刺激性:	区分 2 の成分合計が 46%のため、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性:	眼区分 2A の成分合計が 46.222%のため、区分 2A とした。
呼吸器感作性:	区分 1 の成分が 45.556%のため、区分 1 とした。
皮膚感作性:	区分 1 の成分が 45.556%のため、区分 1 とした。 ※区分 1 は 0.444%含まれる。
生殖細胞変異原性:	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性:	区分 1A の成分が 26.667%のため、区分 1A とした。 ※区分 2 は 0.222%含まれる。
生殖毒性:	区分 1A の成分が 0.444%のため、区分 1A とした。
生殖毒性・授乳影響:	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	区分 1(中枢神経)の成分が 45.556%のため、区分 1(中枢神経)とした。 区分 1(呼吸器)の成分が 26.667%のため、区分 1(呼吸器)とした。 区分 1(呼吸器系)の成分が 26%のため、区分 1(呼吸器系)とした。 区分 3(気道刺激性)の成分合計が 46%のため、区分 3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	区分 1(呼吸器)の成分が 45.556%のため、区分 1(呼吸器)とした。 区分 1(聴覚器)の成分が 45.556%のため、区分 1(聴覚器)とした。 区分 1(呼吸器系)の成分が 26%のため、区分 1(呼吸器系)とした。 区分 1(腎臓)の成分が 26%のため、区分 1(腎臓)とした。
誤えん有害性:	動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性):	(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が46.222%のため、区分2とした。
水生環境有害性 長期 (慢性):	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が48.22%のため、区分3とした。
生態毒性:	データなし。
残留性・分解性:	データなし。
生体蓄積性:	データなし。
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

産業廃棄物（廃液と廃プラスチック類の混合物）として許可を受けた専門業者に委託する。
乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。
容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。

国連分類：クラス 4. 1（可燃性固体 PG III）

国連番号：1 3 2 5

15. 適用法令

労働安全衛生法:

特定化学物質第2類物質、特別有機溶剤等(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2号、第3の2号、第3の3号)

スチレン

作業環境評価基準(法第65条の2第1項)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項・厚労省指針公示)

スチレン

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9)

スチレン(政令番号:323)

無水フタル酸(政令番号:553)

結晶質シリカ(政令番号:165の2)(20%-30%)(

特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)

スチレン

特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項)

がん原性物質(安衛則第577条の2第5項、令和4年12月26日告示第371号、令和4年12月26日基発1226第4号)

結晶質シリカ

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

無水フタル酸

皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

無水フタル酸

特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

スチレン

労働安全衛生法

(令和7年4月1日以降):

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

スチレン(安衛則別表第2の番号:1128)

無水フタル酸(安衛則別表第2の番号:1976)

結晶質シリカ(安衛則別表第2の番号:578)

濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号)

労働安全衛生法

(令和8年4月1日以降):

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

スチレン

無水フタル酸

結晶質シリカ

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

	スチレン(安衛則別表第2の番号:1128)
	無水フタル酸(安衛則別表第2の番号:1976)
	結晶質シリカ(安衛則別表第2の番号:578)
	N, N-ジメチルアニリン(安衛則別表第2の番号:996)
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法):	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) スチレン(管理番号:240)(17%) 無水フタル酸(管理番号:413)(1.1%)
化審法:	優先評価化学物質(法第2条第5項)
消防法:	第2類 可燃性固体 引火性固体
水質汚濁防止法:	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
悪臭防止法:	特定悪臭物質(施行令第1条)
大気汚染防止法:	特定物質(法第17条第1項、施行令第10条) 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次 答申)
海洋汚染防止法:	揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達) 油性混合物(施行規則第2条の2) 危険物(施行令別表第1の4) 有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(X類物質)・油性混合物(施行令別表第1第1号イ(81)) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(X類同等の物質)(環境省告示第148号第1号)
外国為替及び外国貿易法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法):	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12 号)
労働基準法:	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したのですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS): JIS Z 7253:2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月(社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカーSDS

作成日：1996年09月17日
改訂日：2025年03月14日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称:ショーボンド BLシール(W) 硬化剤
会社名:ショーボンドマテリアル株式会社
住所:埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門:品質保証課
電話番号:049-225-5611 F A X:049-225-5616
緊急連絡先:品質保証課 電話番号:049-225-5611
整理番号:BLシール(W)硬化剤 -15

推奨用途及び使用上の制限:工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	可燃性固体	分類できない
健康に対する有害性:	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
	皮膚感作性	区分1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用 気道刺激性)
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分1
※記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない		

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き

予防策: 熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で
 休息させること。

下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、
 身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。

保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が
 立ち入れないような管理された場所で保管すること。

廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
 業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
フタル酸ジメチル	(3)-1301,(7)-705	131-11-3	20~30
過酸化ジベンズイル	(3)-1349	94-36-0	5~15
酸化チタン(IV)	(1)-558,(5)-5225	13463-67-7	1~10

4. 応急処置

目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹸で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: 粉末、炭酸ガス、泡。
 使ってはならない消火剤: 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
 特有の消火方法: 可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
 消火を行うものの保護: 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 保護具及び緊急時措置:直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
 環境に対する注意事項: 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

- 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
- 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
- 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
ホームページアドレス: <https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
- 接触回避: 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管 :

- 技術的対策: 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
- 保管条件: 酸化剤、酸から離して保管する。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
- 混色禁止物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料: 密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先: <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
フタル酸ジメチル	未設定	未設定	設定あり
過酸化ジベンゾイル	未設定	未設定	設定あり
酸化チタン(IV)	未設定	0.3mg/m ³ ;総粉塵 2mg/m ³ 吸入性粉塵 1.5mg/m ³	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
フタル酸ジメチル	未設定	未設定
過酸化ジベンゾイル	未設定	未設定
酸化チタン(IV)	未設定	未設定

- 設備対策: 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

- 呼吸器の保護具: 必要な個人用保護機器を使用すること。
- 手の保護具: 不浸透性の保護手袋
- 目の保護具: 保護メガネ
- 皮膚及び身体の保護具: 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

- 物理的状態、形状等: パテ状
- 色: 白色
- 臭い: 特になし
- 融点/凝固点: データなし
- 沸点,初留点及び沸騰範囲: データなし

可燃性:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:	データなし
引火点:	100℃以上
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
pH:	データなし
動粘性率:	データなし
溶解度:	データなし
n-オクタノール/水分配係数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.9g/cm ³
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし
その他情報:	データなし

1 0. 安定性および反応性

安定性:	常温、常圧で安定。65℃以上で急激に反応する。
反応性:	アミン類、酸、アルカリ等により爆発的に分解が促進される。
避けるべき条件:	酸類、アミン、還元性物質と同一場所での保管。
混触危険物質:	本製品の分解を促進する酸・アルカリ類、アミン類、重金属、還元性物質等の異物および木、紙、綿、織物等の可燃物との接触を避ける。
危険有害な分解生成物:	ジフェニル、安息香酸、一酸化炭素

1 1. 有害性情報

急性毒性:	経口:	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	経皮:	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入(気体):	GHS 定義による気体ではない。
	吸入(蒸気):	データ不足のため分類できない。
	吸入 (粉じん・ミスト):	急性毒性推定値が 12.5mg/l 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性/刺激性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性:		眼区分 2 の成分合計が 49%のため、区分 2A とした。
呼吸器感受性:		データ不足のため分類できない。
皮膚感受性:		区分 1 の成分が 49%のため、区分 1 とした。
生殖細胞変異原性:		データ不足のため分類できない。
発がん性:		データ不足のため分類できない。
生殖毒性:		データ不足のため分類できない。
生殖毒性・授乳影響:		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):		区分 3(麻酔作用)の成分合計が 25%のため、区分 3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):		区分 3(気道刺激性)の成分合計が 74%のため、区分 3(気道刺激性)とした。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
誤えん有害性:		動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性):	短期	区分1×毒性乗率の成分合計が49%のため、区分1とした。
水生環境有害性 (慢性):	長期	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとされた。毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性:		データなし。
残留性・分解性:		データなし。
生体蓄積性:		データなし。
土壤中の移動性:		データなし。
オゾン層への有害性:		データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

産業廃棄物（廃液と廃プラスチック類の混合物）として許可を受けた専門業者に委託する。
 乾燥し固形状になったものは、廃プラスチック類として同様に処理する。
 容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。
 容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
 容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
 海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。
 航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。
 国連分類：クラス 5. 2（酸化性物質類）有機過酸化物
 国連番号：3 1 0 6

1 5. 適用法令

労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV) 危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9) ジベンゾイルペルオキシド(政令番号:282) フタル酸ジメチル(政令番号:480) 酸化チタン(IV)(政令番号:191) 皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧) ジベンゾイルペルオキシド
労働安全衛生法 (令和7年4月1日以降):	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) ジベンゾイルペルオキシド(安衛則別表第2の番号:982) フタル酸ジメチル(安衛則別表第2の番号:1717) 酸化チタン(IV)(安衛則別表第2の番号:623)

労働安全衛生法 (令和8年4月1日以降):	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2) ジベンゾイルペルオキシド フタル酸ジメチル 酸化チタン(IV)
毒物及び劇物取締法: 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法): 消防法: 海洋汚染防止法:	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2) ジベンゾイルペルオキシド(安衛則別表第2の番号:982) フタル酸ジメチル(安衛則別表第2の番号:1717) 酸化チタン(IV)(安衛則別表第2の番号:623) 非該当 非該当 指定可燃物 合成樹脂類(その他のもの) 有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法: 道路法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法):	特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号)

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
 新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
 本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS): J I S Z 7 2 5 3 : 2 0 1 9)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月(社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカー SDS